

# 学習ポイント 1

## 中心と根拠を残して、二百マスにまとめる

二百字の作文では、限られた長さの中で、中心と根拠を読み手に届ける必要があります。このドリルでは原稿用紙の使用マス数を基準にし、八・九は百八十～二百マス、十は二百マスちょうどで書きます。数を合わせるだけでなく、何を残し、何を削るかを説明できるようにしましょう。

目標 原稿用紙の使用マス数を正確に数え、全体の長さを計画できる。／中心・根拠・必要な限定を残し、重複や脱線を削れる。／不足する説明を補い、内容を保ちながら指定の長さへ推敲できる。

### 1 文字数と使用マス数を区別する

この冊子は横書きで、一行二十マス、十行が二百マスです。本文だけを数え、題名・氏名は含めません。段落冒頭の一マスの空白は使用マス数に含めます。実際の試験では、その問題が指定する数え方や用紙に従いましょう。

例 「資料を読む。」 だけなら、文字は六字、冒頭の空白を含む使用マス数は七マス。

例 字数制限がある問題では、まず数え方と上限・下限を確認する。

### 2 段落変更による空白も確認する

段落を変えると、前の行の残りを空け、次の行の冒頭も一マス空けます。途中の段落末の空白は使用マス数に含めます。ただし、作文の最後の文字より後にある空白は数えません。

例 「資料を読む。要点を記す。」 を一段落で書くと十三マス。

例 「資料を読む。」 で段落を変えると、最初の行の二十マスと次の行の七マスで二十七マス。

## 学習ポイント 2

中心と根拠を残して、二百マスにまとめる

---

### 3 句読点・かぎかっこの例外を知る

句読点やかぎかっこは原則として一つ一マスです。句読点や閉じるかぎかっこが行頭に来る場合は、前の行末の文字と同じマスに入れます。句点に続く閉じるかぎかっこは二つで一マスです。開くかぎかっこは行末を避けて次行へ移し、そのための空白も数えます。

例 二十マス目まで文字があり、次が句点なら、その句点は二十マス目の文字と同じマスに入る。

例 長さは文字だけの計算で済ませず、最後に原稿用紙上で確認する。

### 4 大切な部分に長さを配分する

まず中心を一文で決め、何を根拠として示すかを選びます。経験を書くなら、背景を短くし、判断・行動・結果に長さを使う方法があります。配分は目安であり、すべての作文を同じ構成にする必要はありません。

例 配分の一例：背景二行、行動と結果六行、考察二行。

例 背景の説明が長くなり、肝心の工夫が一言だけになっていないか確認する。

## 学習ポイント 3

中心と根拠を残して、二百マスにまとめる

---

### 5 削ってよい説明、残すべき限定

意味が重なる語や中心と無関係な話を先に削ります。一方、理由、因果のつながり、誰についていつ確かめたかという限定は、短くするために消すと意味が変わることがあります。

例 圧縮：「全員が一人残らず意見を出した」→「全員が意見を出した」。

例 残す限定：「今回の班では」を削ると、すべての班に当てはまるように読めてしまう場合がある。

### 6 足すなら根拠、仕上がりには再確認

短すぎる場合は、抽象的な感想を重ねず、具体的な判断や結果を補います。長さを変えたら使用マス数を数え直し、中心・根拠・結論がつながるかも読み直します。ちょうどにするための不自然な言い換えは避けます。

例 補う前：計画が大切だ。→移動時間を調べて予定を減らすと、最も見たい展示の時間を確保できた。

例 最終確認：長さ、段落、指定内容、文体を確認してから、読み手の立場でもう一度読む。

# 原稿欄の使い方

## 字数条件は使用マス数で確認

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来るときは、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

## 数え方の例 2段落で30マス

|  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|
|  | 朝 | の | 校 | 庭 | を | 歩 | い | た | 。 |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 20 |
|  | 空 | 気 | が | 澄 | ん | で | い | た | 。 | 30 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |

1段落目の残り10マスと、各段落の初めの空き1マスも数えます。最後の文の後の空きは数えません。

## 取り組み方と参考資料

全10問 | 基礎4問・標準3問・応用3問

学習ポイントを確認してから、問題の問1～7で部分練習をし、問8～10でまとめた作文に取り組みます。構成メモ → 本文 → 条件確認 → 書き直しの順に進めましょう。

解答解説の文章は一例です。経験や立場が異なっても、問いと条件に合い、理由や根拠が読み手に伝われば認められます。各問の確認基準は、この教材の学習用の目安です。全国共通の入試採点基準ではありません。

教材の対象は中学3年生です。基礎から高校入試を意識した短い作文まで段階的に練習します。時間配分や段落構成に、すべての作文に共通する唯一の正解はありません。

本文を書く原稿欄は1マス9mm、短い回答や構成メモの罫線は1行10mmです。原寸（100％）で印刷すると、この大きさに使えます。

すべての例文・設問・作文例・資料は、本教材のために作成したオリジナルです。表の数値や調査は架空であり、実在の学校や社会全体の傾向を示すものではありません。特定の入試問題や教科書本文は転載していません。

### 学習範囲の参考資料

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

第3学年「書くこと」（冊子120～123ページ）を学習目標の確認に使用。例文・設問・資料は転載していません。

資料確認日 2026年10月8日。資料名から文部科学省の資料を開けます。